

《月報》
平成 23年 9月
(第35 ~39週)発行年月日:平成23年(2011年)10月17日
発 行:滋賀県衛生科学センター内
滋賀県感染症情報センター

1)全数報告の感染症(一類~五類)

全国の医療機関において、医師が感染症法で定められている一~四類および五類感染症に該当する患者を診断したとき医師は、保健所に届出ることになっています。
このことを全数報告といいます。また、届出により全国または滋賀県で発生している感染症法で定められた一~四類および五類感染症を把握することができます。

感染症 類型	疾 病 名	平成 23年		平成 22年 [†]		感染症 類型	疾 病 名	平成 23年		平成 22年 [†]			
		1~8月		9月				1~8月		9月			
		滋賀県	全国	滋賀県	全国			滋賀県	全国	滋賀県	全国		
一類	エボラ出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	クリミア・コンゴ出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	痘そう	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	南米出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	ペスト	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	マールブルグ病	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	ラッサ熱	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	急性灰白髄炎	0	1	0	0	0	0	2	0	0	0	0	
	結核	205	19,546	33	3,117	251	26,704	0	0	0	0	0	
	ジフテリア	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
二類	重症急性呼吸器症候群	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	鳥インフルエンザ(H5N1)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	コレラ	0	6	0	2	0	10	0	0	0	0	2	
	細菌性赤痢	2	150	0	76	2	235	0	0	0	0	0	
	腸管出血性大腸菌感染症	56	2,654	9	558	66	4,131	0	0	0	0	0	
三類	腸チフス	0	14	0	4	0	32	0	0	0	0	0	
	パラチフス	0	17	0	3	1	21	0	0	0	0	1	
	E型肝炎	0	41	0	7	0	66	0	2	0	0	4	
	ウエストナイル熱	0	0	0	0	0	0	0	10	459	0	116	
	A型肝炎	0	143	0	11	3	346	0	8	0	8	0	
	エキノコックス症	0	12	0	1	0	17	0	0	0	0	0	
	黄熱	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	オウム病	0	11	0	0	1	11	0	168	0	22	3	
	オムスク出血熱	0	0	0	0	0	0	0	193	0	9	0	
	回帰熱	0	0	0	0	0	1	0	6	0	1	0	
四類	キャサヌル森林病	0	0	0	0	0	0	0	80	0	15	2	
	Q熱	0	0	0	0	0	2	0	149	1	10	3	
	狂犬病	0	0	0	0	0	0	0	927	1	148	1	
	コクシジオイデス症	0	2	0	0	0	1	0	44	0	6	1	
	サル痘	0	0	0	0	0	0	0	7	0	0	7	
	腎症候性出血熱	0	0	0	0	0	0	0	193	0	9	0	
	西部ウマ脳炎	0	0	0	0	0	0	0	6	0	1	0	
	ダニ媒介脳炎	0	0	0	0	0	0	0	80	0	15	2	
	炭疽	0	0	0	0	0	0	0	149	1	10	3	
	チクングニア熱 ^(*)	0	5	0	1	—	—	0	927	1	148	1	
五類	つつが虫病	0	162	0	8	2	406	0	44	0	6	1	
	デング熱	1	59	0	19	2	245	0	7	0	0	7	
	東部ウマ脳炎	0	0	0	0	0	0	0	193	0	9	0	
	動物の 感染症	0	0	0	0	0	0	0	6	0	1	0	
	鳥インフルエンザ(H5N1)の鳥類	0	71	0	0	0	9	0	71	0	0	9	
	細菌性赤痢のサル	9	15	0	1	0	59	0	15	0	1	59	
	エキノコックス症の犬	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	風しん	2	304	0	19	5	89	0	304	0	19	5	
	麻しん	2	387	0	13	1	455	0	387	0	13	1	
	エキノコックス症の犬	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	

(*):感染症法の一部改正(平成23年2月1日施行)により、2月からの集計。—:未集計

*1 感染症発生動向調査事業年報(国立感染症研究所感染症情報センター、暫定数)

滋賀県における全数報告感染症の概要
(9月)

<結核> 33名

性別:男性 23名、女性 10名

類型:患者 29名

疑似症患者 1名

無症状病原体保有者 3名

病型:肺結核 23名

その他の結核 6名

無症状病原体保有者 3名

疑似症患者 1名

<腸管出血性大腸菌感染症>

性別:男性 6名、女性 3名

類型:患者 6名

無症状病原体保有者 3名

年齢:0~9歳 2名、10~19歳 1名

20~29歳 4名、50~59歳 1名

70歳~ 1名

血清型・毒素型:

O157-VT2 3名、O26-VT1 6名

<劇症型溶血性レンサ球菌感染症>

女性 91歳

推定感染経路は創傷感染で、推定感染地域は日本国内です。

<後天性免疫不全症候群> 男性 62歳

推定感染経路は同性間性的接触で、

推定感染地域は日本国内です。また、

病型は無症候性キヤリアです。

<梅毒> 女性 31歳、92歳

推定感染経路は異性間性的接触およ

び不明で、推定感染地域は2名とも日本

国内です。また、病型2名とも無症状病

原体保有者です。

2) 定点把握の対象となる五類感染症

感染症発生動向調査事業に係る報告のうち、滋賀県が指定した「指定届出機関」を定点医療機関(定点)といい、その定点から報告される感染症を定点把握対象感染症といいます。また、定点当たり患者数とは、一週間を単位として一ヵ所の定点から何人の患者が報告されているかを示したものです(患者報告数／定点医療機関数)。例えば、一つの疾患(インフルエンザ等)について、一週間に53ヵ所の定点から総数53人の報告があれば、定点当たり患者数は1.00となります(疾患により定点数は異なります)。

また、疾患によりインフルエンザ定点、小児科定点、眼科定点および基幹定点に分かれています。

9月の概要

＜インフルエンザ＞

第35～38週(8/29～9/25)の報告はありませんでした。第39週には大津市保健所管内からの報告があり、県全体の定点当たり患者数は0.02となっていました。

＜小児科定点疾患＞

今月増加した疾患はRSウイルス感染症、感染性胃腸炎等で、減少した疾患は水痘、手足口病、ヘルパンギーナ等です。特に、RSウイルス感染症は先月より急増し、昨年同時期の約5倍増となっていました(各疾患の週別発生状況については、疾病別定点当たり患者数のグラフ参照)。

RSウイルス感染症——過去(平成16～22年)同時期の発生状況と比較すると、定点当たり患者数は最も多くなり、全国とほぼ同様の傾向を示していました。また、第35～39週(8/29～10/2)の年齢群別の発生状況では、大部分は0～1歳からの報告で、全体の約77%を占めていました。次に多かったのは、2歳で全体の約17%を占めていました。

水痘——先月よりさらに減少し、第35週(8/29～9/4)の定点当たり患者数は年間で最も少なくなり、0.28となっていました。

百日咳——大津市、東近江、彦根および高島保健所管内から報告されました。年齢群別では、0～1歳からの報告がやや多く、10～19歳からの報告もありました。

手足口病——第26週(6/27～7/3)以降、連続して県内全域に警報が発令されていましたが、第39週(9/26～10/2)に解除されました。

＜眼科定点疾患＞＜基幹定点疾患＞

眼科定点疾患である流行性角結膜炎は先月より減少しているものの、先月と同様、彦根保健所管内からの報告が多くなっていました。急性出血性結膜炎の報告はありませんでした。

基幹定点疾患では、細菌性髄膜炎および無菌性髄膜炎は東近江保健所管内からの報告のみでした。マイコプラズマ肺炎は先月より急増し、大津市、東近江および彦根保健所管内からの報告がありました。また、クラミジア肺炎の報告はありませんでした。

＜インフルエンザ(入院)＞

平成23年9月5日から、インフルエンザ入院サーベイランスが開始され、基幹定点から入院患者数が報告されることになりました。

滋賀県における第36～39週(9/5～10/2)の報告はありませんでした。また、全国では、13名の報告がありました。

＜疑似症定点からの報告＞

報告はありませんでした。

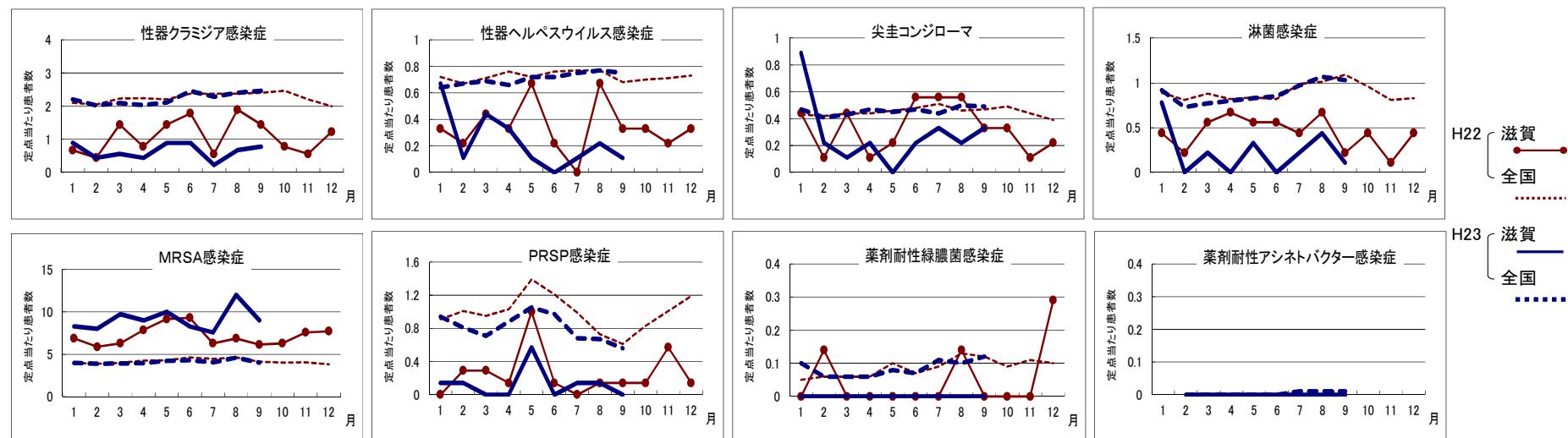
＜各定点の対象疾患＞

定 点	疾 患 名
インフルエンザ定点	インフルエンザ
小児科定点	RSウイルス感染症、咽頭結膜熱 A群溶レン菌咽頭炎、水痘 感染性胃腸炎、手足口病 伝染性紅斑(リンゴ病)、百日咳 突発性発しん、ヘルパンギーナ 流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)
眼科定点	急性出血性結膜炎 流行性角結膜炎
基幹定点	細菌性髄膜炎、無菌性髄膜炎 マイコプラズマ肺炎 クラミジア肺炎(オウム病を除く)

3)性感染症定点および基幹定点における疾病別発生状況(平成23年9月)

疾患名	区分	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
性器クラミジア感染症	報告数	8	4	5	4	8	8	2	6	7				52
	定点当たり患者数	0.89	0.44	0.56	0.44	0.89	0.89	0.22	0.67	0.78				5.78
性器ヘルペスウイルス感染症	報告数	6	1	4	3	1	0	1	2	1				19
	定点当たり患者数	0.67	0.11	0.44	0.33	0.11	0	0.11	0.22	0.11				2.10
尖圭コンジローマ	報告数	8	2	1	2	0	2	3	2	3				23
	定点当たり患者数	0.89	0.22	0.11	0.22	0	0.22	0.33	0.22	0.33				2.54
淋菌感染症	報告数	7	0	2	0	3	0	2	4	1				19
	定点当たり患者数	0.78	0	0.22	0	0.33	0	0.22	0.44	0.11				2.10
メチシリン耐性 黄色ブドウ球菌感染症	報告数	58	56	68	63	70	58	53	84	63				573
	定点当たり患者数	8.29	8.00	9.71	9.00	10.00	8.29	7.57	12.00	9.00				81.86
ペニシリン耐性 肺炎球菌感染症	報告数	1	1	0	0	4	0	1	1	0				8
	定点当たり患者数	0.14	0.14	0	0	0.57	0	0.14	0.14	0				1.13
薬剤耐性 緑膿菌感染症	報告数	0	0	0	0	0	0	0	0	0				0
	定点当たり患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0				0
薬剤耐性 アシнетバクター感染症 ^(*)	報告数	-	0	0	0	0	0	0	0	0				0
	定点当たり患者数	-	0	0	0	0	0	0	0	0				0

* : 感染症法の一部改正(平成23年2月1日施行)により、2月からの集計。 -は未集計。

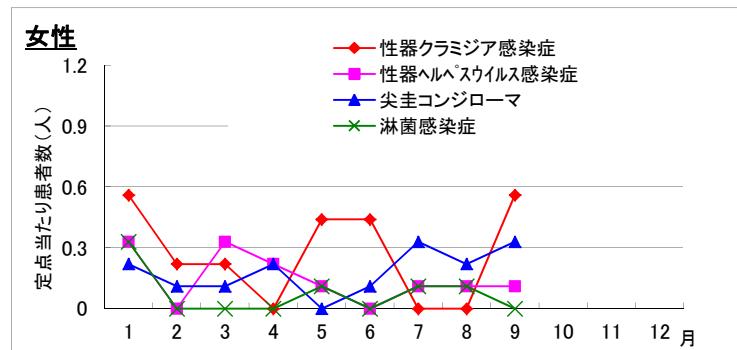
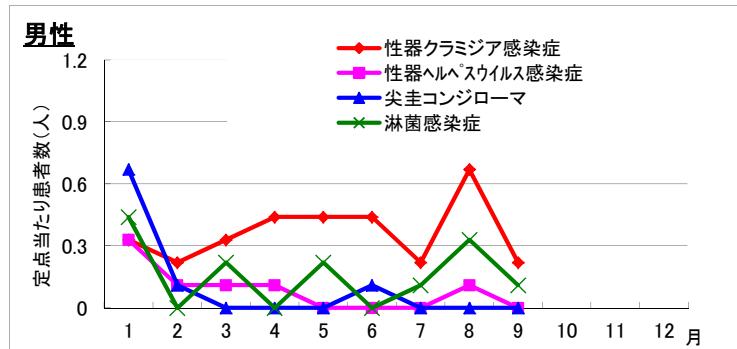


滋賀県における発生状況を先月と比較すると、増加した疾患は性器クラミジア感染症および尖圭コンジローマで、他の疾患では減少しています。また、PRSP感染症、薬剤耐性緑膿菌感染症および薬剤耐性アシнетバクター感染症は報告されていません。

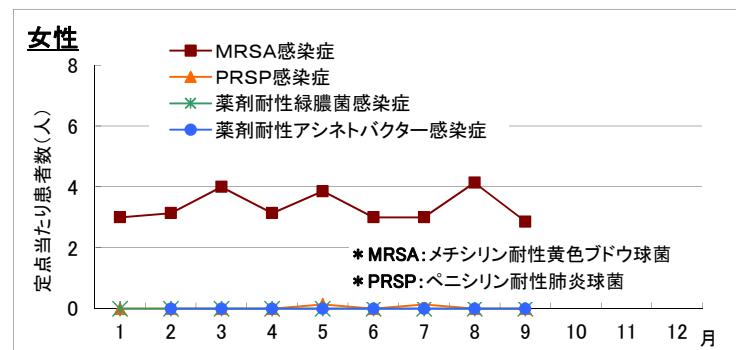
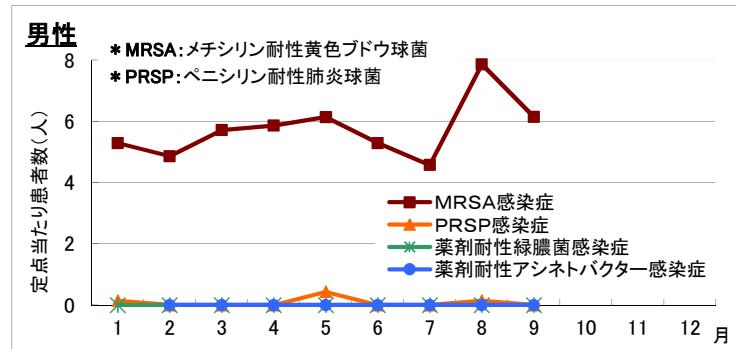
MRSA: メチシリン耐性黄色ブドウ球菌

PRSP: ペニシリン耐性肺炎球菌

性感染症定点における疾患別発生状況 (H23.9)



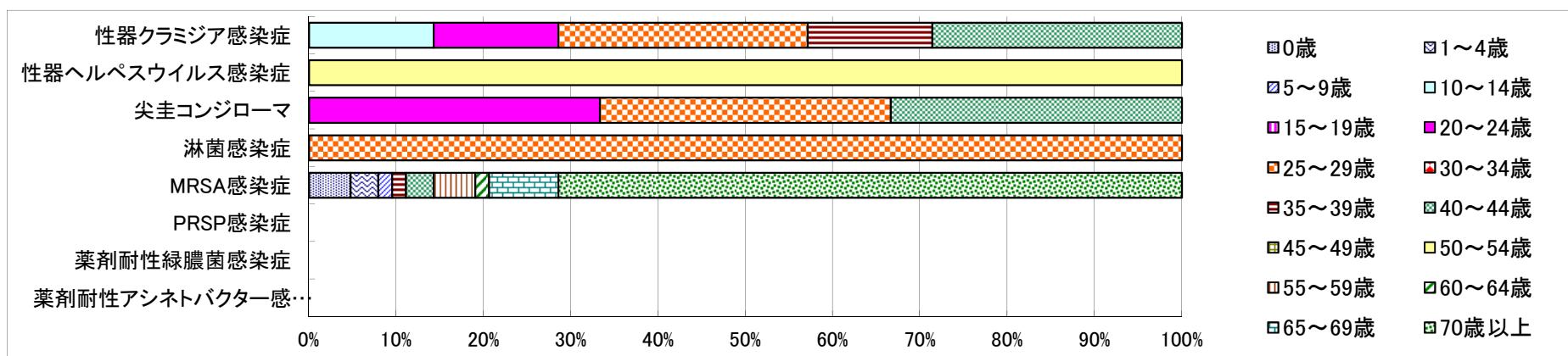
基幹定点における疾患別発生状況 (H23.9)



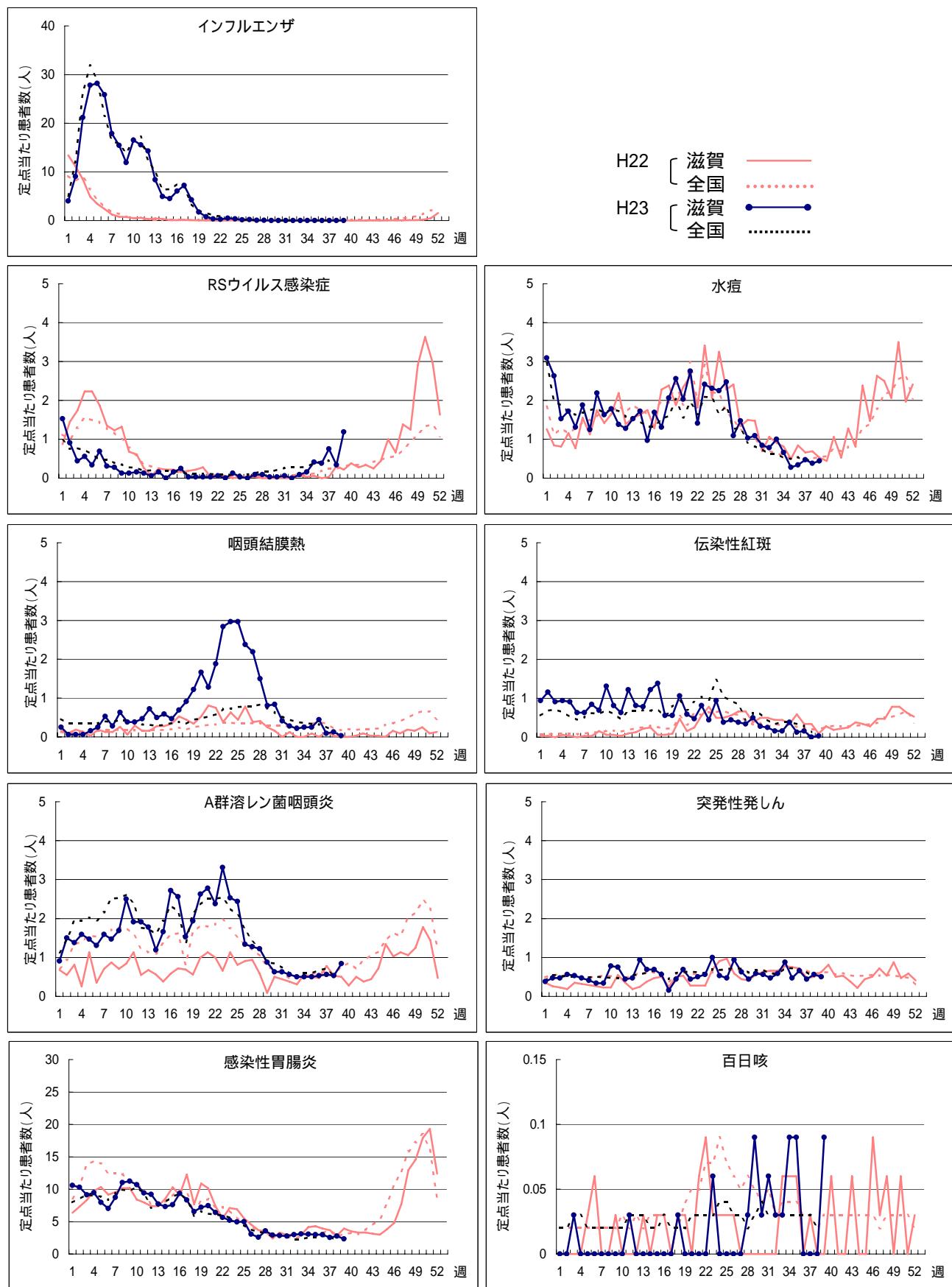
性感染症定点および基幹定点における各疾患の月別・性別発生状況は、左記グラフに示すとおりです。性器クラミジア感染症は、男性で大幅に減少していますが、女性で大幅に増加していました。淋菌感染症およびMRSA感染症は、男女ともに減少していました。

また、各疾患の年齢別発生状況は、下記グラフのとおりです。性器クラミジア感染症では、10～14歳からの報告がありました。

疾患別・年齢別発生状況(H23.9)



疾病別定点当たり患者数(平成23年第1～39週、H23.1.3～H23.10.2)



疾病別定点当たり患者数

(平成23年第1~39週、H23.1.3~H23.10.2)

H22 滋賀
全国

H23 滋賀
全国

